

## 1 対象機関の概要

千葉大学のキャンパスは、千葉市稲毛区（西千葉地区）、同市中央区（亥鼻地区）及び松戸市（松戸地区）の三カ所に分かれている。本部の置かれている西千葉キャンパスには、教養教育実施のための総合校舎があり、文学部・教育学部・法経学部・理学部・薬学部・工学部の6学部のほか、外国語センター・留学生センターや各種の研究教育センター等が置かれている。また、亥鼻キャンパスには、医学部・看護学部の2学部と医学部附属病院、真菌医学研究センター等が、松戸キャンパスには園芸学部が置かれている。附属図書館は、西千葉キャンパスにある本館のほか、亥鼻地区と松戸地区には分館が置かれている。

千葉大学は、昭和24年5月、当時千葉県内にあった千葉医科大学、同大学附属医学専門部及び薬学専門部、千葉師範学校、千葉青年師範学校、東京工業専門学校、千葉農業専門学校の各旧制国立諸学校を包括して、新制の国立総合大学として発足したものである。発足当初は、5学部（学芸学部、医学部、薬学部、工芸学部、園芸学部）であったが、昭和25年に学芸学部が教育学部と文理学部とに分かれ、昭和26年に工芸学部が工学部に改組された。その後、昭和34年に文理学部が人文学部と理学部とに分離し、昭和50年に看護学部が新設され、昭和56年には人文学部が文学部と法経学部とに分割されて9学部体制となり、現在に至る。

平成12年度の学部学生の入学定員は2,440名、3年次編入学定員は95名、学部学生の収容定員は10,565名である。在籍学生数は収容定員を若干上回っている。平成12年度の学部別の収容定員は、文学部790名、教育学部1,980名、法経学部1,710名、理学部845名、医学部590名、薬学部320名、看護学部345名、工学部3,125名、園芸学部860名である。理系の学生は、約70%と圧倒的に多い。ちなみに、平成12年度の大学院研究科入学定員は、博士課程255名、修士課程648名で、収容定員は2,129名である。

平成12年度現在の教員数は、学長及び助手を加えて1,262名である。ただし、この中には、11の研究教育センターに所属する教員81名、医学部附属病院に所属する教員146名、大学院の5研究科に所属する教員100名が含まれている。それに加えて、附属小・中学校等の教員102名、全学の職員1,177名があり、千葉大学の教職員総数は2,541名を数える。

千葉大学は、学生数や教職員数はもちろん、学部・学科数が多いこと、キャンパスの面積、50年を越える伝統と実績など、その規模、内容ともに新制国立大学の中で上位に位置する総合大学である。

## 2 教養教育に関する考え方

千葉大学では、平成6年4月以降、教養教育は4年一貫（医学部では6年一貫）教育を目指す大学教育課程の中で位置付けられることになった。教養教育は、この新しいカリキュラムに基づいて、全学教員の協力体制で担当・実施されることを目指して進められてきた。千葉大学の一般教養的内容の教育は「普遍教育」と呼ばれ、広い視野・総合的判断力・深い人間性を育成するための重要な科目区分として位置付けられている。学部教育課程の中では、この「普遍教育」は、専門教育の柱と互いに連携して進められるべき重要な教育であり、また、専門領域を超えて遂行される4年一貫教育の重要な柱として位置付けられてきた。

教養教育の科目のうち、外国語科目、一般情報処理の科目、スポーツ健康科学の科目の3科目区分を「共通基礎科目」として、全学生を対象とする重要な科目に位置付けて実施してきた。また、教養教育の科目のうち、全学の学生を対象とした従来の一般教養的科目を「普遍科目」（総合科目及び個別科目からなる）として区分し、深い教養と人間性とを育てる科目として全学生を対象にして実施されてきた。これらの「共通基礎科目」と「普遍科目」に関する教育は、上述したように「普遍教育」と総称されている。

さらに、教養教育の科目のうち従来の基礎科目（主として理系）の部分で「全学運営専門基礎科目」として普遍教育とは異なる区分がなされ、専門科目の教育のための基礎となる教育、あるいは前提となる教育として位置付けられて実施されてきた。本学では、専門基礎科目は、専門教育科目に含めた形での科目区分がなされている。これは、専門教育の成果を高めるためには、本格的専門科目の教育に入る前の基礎教育から系統的に専門教育の在り方を考えることに基づいている。すなわち、専門教育の第1段階と位置付けている。専門基礎科目は、「全学運営専門基礎科目」と「学部が独自に用意した入門的な専門基礎科目」との組み合わせで実施されるものである。

なお、文系の学部では、普遍科目の中から適当なものを選んで、専門基礎科目と見なすこともある。また、普遍科目が専門教育のための基礎となる、あるいは専門の幅を広げるといって専門教育に寄与するものとして位置付ける学部・学科もある。

専門科目の教育のための基礎となる教育が、積み上げ式の場合と広がりを進めていく方式による場合とで普遍教育の考え方の違いがいくらか見られる。ここ2年ほど、普遍教育の新しい役割・考え方についての議論がなされている。

### 3 教養教育の目的及び目標

#### 1. 千葉大学における教養教育の目的と基本方針

千葉大学の教育の目標は、「時代にふさわしい高い専門性と総合的判断力を持ち、国際化・情報化の進んだ人類社会の一員として創造的に行動する能力を持った人材を育成すること」(「教育改革の基本計画」平成5年全学教務委)におかれている。本学における教養教育の目的もこの基本方向に沿って維持されている。すなわち、本学の教養教育カリキュラムでは、「幅広く深い教養」「総合的な判断力」「豊かな人間性」を育成するという基本的な目的に基づき、数多くの授業科目が企画され、実施されている。これらは、学生がそれぞれの能力を存分に発揮して、情報化・国際化した現代社会に積極的に参画できるように、各学部の専門教育と互いに連携して推し進められるべきものとして位置付けられている。

千葉大学における一般教養的教育は「普遍教育」と呼ばれている。本学の学部教育の教育課程は、一般教養的教育カリキュラムと専門教育カリキュラムとから編成されている。すなわち、一般教養的教育に関連する「普遍教育科目」と専門教育に関連した「専門教育科目」の二つの基本的な柱で構成されている。すべての「普遍教育科目」と「全学運営専門基礎科目」は、大学教育委員会の責任のもとに運営され、全学運営科目として開講されている。

本学の教養教育においては、上記の目的を追求する際に、次の三つの側面が重視される。

- (1) 現代の学問・社会・文化の状況について、多様な面から理解を促進する。
- (2) 専門と関連する学問分野について、多様な面から理解を促進する。
- (3) 自発的に研究し学習する態度を育てる。

これらの目的と目標を達成するために、人文分野・社会分野・自然分野の授業科目(「個別科目」等)をバランスよく履修させるとともに、3分野の枠を超えた学際的・多角的な「総合科目」を重視し、29年前から授業科目として積極的に導入している。

また、多人数教育の弊害を減らし、学生の自主的学習・研究態度を育成することと、学生それぞれの学部専門分野への興味の喚起・動機付けを目的とした少人数教育の「セミナー型科目」もまた29年前から導入され、さらに平成11年度からは「新入生用導入セミナー」が大学教育委員会の方針として全学的に実施され、主体的な勉学態度と大学生活への順調なスタート

を支援し、教員との交流を図ることを目指している。

千葉大学は、大学教育の質的向上を目指して学生の大学教育における動機付けを高めると共に、興味関心を高めることを大学教育において重視し、授業科目の多様化を進めてきた。また、この方針は、総合大学としての特徴を生かしながら全学の教官が何らかの形で教養教育に参加・貢献できる全学協力体制のもとで実施されることを目指すものであった。その結果、全学運営の教養教育の科目として、約1,400コマ(またはクラス)を開講している。学生がこれらの多様な科目の中から主体的に受講科目を選択し、履修計画を立て、積極的な態度で授業に臨むようになることを目標にして、本学の教養教育の実施計画を遂行してきた。

#### 2. 普遍教育の科目区分ごとの目的と目標

普遍教育の全体として目指すところは、「広い学問的な視野と深い洞察力、自主的・総合的な判断力、豊かな人間性と鋭い社会性の養成」(改革の基本方針、平成12年大学教育委)にある。すなわち、「人間と社会と自然に対する優しい目を持ち、自らの意思と力で課題を探求し、自らの専門を広い視野から客観的に観察したうえで、独創的な発想を生み出せるような豊穡な土壌を形成すること」(同上)にある。

この目的の遂行のために、現代と次代の社会に生きる青年に共通して必須な能力を育成するための基本的で基礎的な科目区分をまとめて「共通基礎科目」と位置付け、さらにまた、広い視野の各種の教養を身につけるための科目区分を「普遍科目」として、これら両者の構成で千葉大学の普遍教育科目が組み立てられている。以下に、普遍教育の科目区分ごとの目的と目標について述べる。

##### 2-1. 共通基礎科目

共通基礎科目は、外国語科目、情報処理科目、スポーツ・健康科学科目の3群の科目区分からなる。

- (1) 外国語科目：コミュニケーション能力の体得、異文化理解の促進、専門に連携した入門的外国語文献についての読解力の向上、という目的に沿って、外国語運用能力を高める具体的な授業企画と実施がなされてきた。今後、入学以前の中学・高校での外国語教育の大幅な進展があれば、大学教育における外国語教育は専門教育との連携をさらに強めたものとなっていくと考えられるが、現在はコミュニケーション能力の体得を中心とした外国語運用能力を高めることに重点が置かれている。

(2) 情報処理科目：高度情報化社会の理解と倫理の育成、ならびに一般情報処理の知識及び操作技能の修得を目指す。ほぼ全学必修科目となっている(法経学部は選択)。授業時間外の主体的積極的態度での実習を重視し、かなりの規模の自習室を用意して開放している。現在までの目標は一般情報処理のリテラシーに重点があるが、今後は入学以前の中学・高校での一般情報処理教育の進展を見ながら、大学教育としては専門連携を強め、能力別・課題別の専門基礎教育的な授業へと移行する時期がもうすぐ来るだろうと考えられている。

(3) スポーツ・健康科学科目：自らの「からだ」を通じた知の形成、及び健康増進のための実践力、さらに学生の対面的コミュニケーション能力の育成を目指す。この科目は、次代を担って活躍する青年が健康を維持して人生を送るために大学教育が担う重要な目標の一つとして位置付け、普遍教育の重要な柱として設けている。

## 2-2. 普遍科目

普遍科目は、総合科目と個別科目(セミナー科目を含む)の2種の科目区分からなる。全ての普遍科目は、主題・領域に合わせて、a「人間と文化」、b「社会と政策」、c「人間と環境」、d「自然と情報」のいずれかに分類されてきた。この分類は、履修指導における活用と学生による受講科目の選択の際の有効活用を目指して設けられたものである。時代の要請の変化や学生の志向にも注意を払いながら、新しいコアの組み方を2年間にわたり検討中である。また、普遍教育科目の目標である高い専門性と総合的判断力を身に付けるために、学部教育の全期間を通じて普遍科目の履修が可能な4年(または6年)一貫教育体制を原則としている。

(1) 総合科目：現実の世界から発せられる具体的な主題により構成され、個々の学問の相互協力的ないしは学際性の必要を示す科目として設定されている。一つの主題について複数の教官が講義し、それぞれの視点から問題に接近する。現代の提起する複合的な問題や、学際的な連携が必要な主題について、さまざまな専攻分野の教官によるオムニバス形式の連続授業を通して、複眼的な見方や知見が提供され、学際的視野を育成することを目指している。

(2) 個別科目：個々の学問が、自然や人間や社会の現実といかに直面し、対決してきたかという観点から、その課題・方法・成果・論争・仮説性などを、多様な学部学生を念頭において論ずることを目標として

いる。この科目の履修を通して、豊かな人間性の育成を目指すと共に、自らの専攻する学問の領域を広い視野から見渡し直すとともに、隣接する領域についての知見を深めたり、異なる学問世界への眼や認識を広げることを目指している。

## 3. 全学運営専門基礎科目の目的と目標

専門教育においては、各学部がそれぞれの教育理念と教育目標にしたがって、講義で専門分野の学問領域について体系的知識を獲得させるとともに、演習・実験・実習を通じて、専門に関する基本的知識及び分析的方法と総合する能力を修得できるように指導している。このように、専門教育の質を大幅に向上させようという目的で、従来の自然科学系の基礎科目の部分を新たに「全学運営専門基礎科目」として位置付け、各学部・学科の専門教育に対応できるように必要とする多様な基礎科目を設定し、大学教育委員会のもとに全学運営で実施している。このような基礎科目と学部が独自に運営する専門基礎科目とを組み合わせる「専門基礎科目」の教育は、専門教育のための基礎教育として位置付け、4年一貫教育(医学部は6年一貫教育)の観点に立つ専門教育の始まり、すなわち第1段階であると考え、この位置付けの意義を重視して専門基礎科目の教育に取り組んでいる。

なお、この目的のために、学部・学科によっては、普遍教育科目や他学部の科目の中から特定科目を専門基礎科目に指定して履修させている場合もある。これは、学部・学科によっては、特定の普遍教育科目等の履修が、専門教育の基礎として寄与するという目的を果たすと見なされる場合である。

いずれにしても、4年一貫教育(医学部は6年一貫教育)の観点に立つて従来の大学教育全体を見直し、全学教員の協力を得ながら、専門教育を第1段階の基礎・入門教育から計画的に遂行することにより、すなわち基礎教育をしっかりと踏まえた専門教育を遂行することにより、専門教育の大きな質的改善を目指してきた。分野によっては、千葉大学教官にとってかなり過重になることを覚悟で取り組んできた。

## 4 教養教育に関する取組

### (1) 実施体制

千葉大学における普遍教育科目及び全学運営専門基礎科目の運営は大学教育委員会のもとに行なわれている。

大学教育委員会は、副学長（委員長）、各学部から2名（評議員1名を含む）、各科目運営委員会からの代表1名、各教育関連センターから1名、その他の委員で構成されていて、毎月開催されている。普遍教育等に関する議案等はこの委員会で審議・決定される。

実際に講義数及び内容を検討し、授業計画を立て授業を提供するのは専門教官集団である。専門教官集団は現在42ある。講師以上の全学教官は、少なくとも1つ以上の専門教官集団に所属することになっている。この専門教官集団から代表者を出し、科目運営委員会が構成されている。科目運営委員会は次の8つの委員会からなる。( )の中は、所属する専門教官集団名である。

1. 外国語科目運営委員会（外国語）
2. 情報処理科目運営委員会
3. スポーツ・健康科学科目運営委員会（スポーツ・健康科学）
4. 総合科目運営委員会
5. 個別科目第一運営委員会（哲学，社会思想史，歴史学，表象文化，造形制作，文学，言語学，言語コミュニケーション学，文化人類学，日本文化論，比較分化論，フェミニズム・ジェンダー学）
6. 個別科目第二運営委員会（社会学，教育学，法学，政治学，経済学，地理学，博物館学，図書館学，都市文化論，生活文化論）
7. 個別科目第三運営委員会（環境科学，科学技術史・科学論，心理学，医科学，薬科学，保健学・ケア学，技術科学，画像工学，建築環境，デザイン科学，スポーツ・健康科学）
8. 専門基礎科目・個別科目第四運営委員会（数学・統計学，物理学，化学，生物学，地球科学，自然史，情報科学）

この他に科目運営委員会に所属しない教官集団として国際交流の教官集団がある。各科目運営委員会は、所属する専門教官集団に共通した問題等を検討・調整し、関連する科目の運営にあたる。

大学教育委員会のもとには、科目運営委員会とは別の組織として次の専門委員会がある。

普遍教育等時間割編成専門委員会，普遍教育等自己点検・評価専門委員会，普遍教育等予算専門委員会，既修得単位認定専門委員会，視聴覚教室運営専門委員会，普遍教育等図書専門委員会，等。

これらの専門委員会は、各科目運営委員会及び各学部からの代表者で構成されている。この中の普遍教育等時間割編成専門委員会では履修案内，シラバスの作成及び時間割の編成等を行っている。

学生による授業評価は、普遍教育等自己点検・評価専門委員会が平成12年度から継続的に、マークシート方式及び一部記述式による授業評価・調査を普遍教育等科目の全教科・全クラスで行っている。その評価項目区分としては、

- (1) 受講の動機
- (2) 受講者数の調整について
- (3) 授業内容について
- (4) 授業方法について
- (5) 授業からの効果
- (6) 学生の自己評価

である。自由記述欄には、改善すべき事項や開講希望科目などを記入できる。その集計結果を各授業担当教官に報告し、授業方法の改善などに役立ててもらっている。また専門教官集団主任，科目運営委員会委員長へ科目毎の集計結果を報告し、さらに大学教育委員会へも報告することにより全体的な教育改革を目指している。

ファカルティ・デベロップメントに関しては、大学教育委員会のもとに、FD実施委員会，マルチメディア利用教育ワーキンググループなど毎年複数の実行委員会を作り活動している。FD実施委員会は次のようなことを行っている。

#### (1) 普遍教育等学生会議

これは学生と教官の対話集会で、年1～2回行っている。学生の参加は自由、教官側の参加者は大学教育委員会委員と専門教官集団主任。

#### (2) 普遍教育シンポジウム

講師を招き普遍教育に対する全学教官のよりよき理解を深めてもらっている。

#### (3) 普遍教育改善研修会

これは授業改善のための研修合宿である。平成11年度は専門教官集団主任等が参加した。

#### (4) FD勉強会

いままでに「一般教育の理念」，「CALL英語」，「専門連携英語」についての勉強会を開いた。

一方マルチメディア利用教育ワーキンググループはマルチメディア利用教育促進の諸策として、

- (1) 各種の講演会・研修会の3キャンパス同時開催
- (2) マルチメディア学内施設の点検・補強と活用手引の作成

(3) 他大学や民間施設の見学・調査と全学への報告などの実施を行っている。

また、これらの実施委員会とは別に、大学教育委員会は新生生に対するガイダンスを強化するため、全学の新生生ガイダンス担当教官を集めた説明会なども開催している。

## (2) 教育課程の編成及び履修状況

### 1. カリキュラム編成上の基本方針と特徴

千葉大学のカリキュラムは、「専門教育科目」と一般教育科目に相当する「普遍教育科目」の2つの基本的な柱で構成されている。普遍教育科目は、全学運営科目として大学教育委員会の責任のもとに開講されるものであり、「共通基礎科目」と「普遍科目」から成り立っている。一方、専門教育科目は、「専門基礎科目」と「専門科目」で構成されている。

教養教育の教育課程編成にあたっては、人類の文化的蓄積としての伝統的な諸学問分野から学ぶ科目と共に、現代社会の提起する様々な課題にどう取り組み、どう考えるかを学ぶための新しい学問分野の科目とを組み合わせ、多様な科目群を構成するように企画されている。このことは、学生の主体的な勉学への取り組み、興味や好奇心の向上を促進すること、及び全学教官の参加と協力の推進を図ることをねらったものである。学生各自の履修計画においても、外国語科目、スポーツ健康科学科目、普遍科目等については、科目指定制度を避け、できるだけ学生の希望に沿って履修科目を選択させる方針を取ってきた。そのことによる長所と問題点の分析は継続的に行われて、問題点については少しずつ改善の努力がなされてきている。

### 2. 科目区分と内容

全学運営科目としては、約1,400コマ（又はクラス）の授業を開講している。以下において、これらの授業についての科目区分とその構成内容を述べると共に、平成12年度における開講授業科目と開講コマ数を示す。

1) 共通基礎科目：外国語科目、情報処理科目、スポーツ・健康科学科目の3群の科目区分からなる。

(1) 外国語科目：既修外国語（英語）及び未修外国語（英語以外の外国語）科目が用意されている。

英語：235コマを開設し、履修形態の自由化と多様化を図っていることが特徴である。たとえば、英語においては、リスニング&スピーキング、リーディング、ライティング、英語文化、その他のコースを開設し、学生による選択を可能にした。また、これらについて、充実コース、発展コース、上級英語、異文化理解コース、専門連携コース、CALL英語・TV英語コース、初級コース、海外研修英語、検定英語など多様なレベルと多様な授業形態を開設している。とくに、CALL英語はコンピュータ支援言語学習形態であるが、本学の英語教官集団によって開発された独自の教育プログラムを用いており、個人の理解度に応じた学習を可能にしている。

海外研修英語は、アラバマ大学、モナシュ大学及びアルバータ大学の3大学と提携して研修を行っている。この期間1ヶ月間の研修に対しては、研修成績に応じて4単位を認定している。

さらに、認定科目として、検定英語、同、同（各2単位）を用意している。具体的には、実用英語技能検定の場合は、準1級が検定英語を、1級が検定英語・・・を認定している。TOEFLの場合は、500点以上が検定英語を、550点以上が検定英語・・・を認定している。TOEICの場合は、600点以上が検定英語を、730点以上が検定英語・・・を認定している。

また、外国語履修に対する学生の動機づけの促進を図るとともに、専門教育との有機的連携を図るために「専門連携コース」を設けている。

未修外国語：次の16カ国語について、入門レベル、基礎レベル、中級レベルの他に、海外研修による単位認定や検定資格による単位認定など、学生の選択幅を拡げている。平成12年度の開設外国語とコマ数は次の通りである。ドイツ語（83コマ）、フランス語（100コマ）、ロシア語（16コマ）、中国語（81コマ）、朝鮮語（12コマ）、スペイン語（9コマ）、イタリア語（14コマ）、インドネシア語（7コマ）、ラテン語（2コマ）、古典ギリシャ語（2コマ）、ハンガリー語（4コマ）、ポーランド語（4コマ）、ポルトガル語（4コマ）、ブルガリア語（2コマ）、アラビア語（2コマ）、アイヌ語（3コマ）

海外研修科目は、中国語が湖南大学、ドイツ語がライプツヒ大学、フランス語がフランシュ・コンテ大学とそれぞれ提携して実施している。

また、フランス語の認定科目として、実用フランス語技能検定の4級で検定フランス語、3級で検定フランス語と同（計4単位）、2級以上で検定フランス語と同と同（計6単位）が認定される。

(2) 情報処理科目：この科目は演習を含む講義として編成し、ほぼ全学必修科目（法経学部のみ選択）として100名規模のクラスを29コマ開設している。高度情報化社会の理解ならびに情報処理の知識及び操作技能の修得を目指し、UNIXを中心とする基礎的情報処理教育を施すと共に、各種のコンピュータ活用につながるように教育を工夫している。

(3) スポーツ・健康科学科目：この科目区分では15科目126コマを開設している。授業科目名とコマ数は、次の通りである。からだ動き（9コマ）、空手（1コマ）、ゴルフ（4コマ）、サッカー（10コマ）、柔道（2コマ）、ソフトボール（8コマ）、体力づくり（7コマ）、卓球（19コマ）、テニス（22コマ）、ニュ

ースポーツ(1コマ), バスケットボール(9コマ), バドミントン(16コマ), バレーボール(10コマ), ハンドボール(2コマ), 保健運動(8コマ)

## 2) 普遍科目

本学の普遍科目は総合科目と個別科目の2種の科目区分からなる。これら総合科目及び個別科目(セミナー科目を含む)の個々の科目は、主題・領域に合わせて、a「人間と文化」、b「社会と政策」、c「人間と環境」、d「自然と情報」に分類されている。

(1) 総合科目: 特定の専門分野に偏らず、広く総合的・学際的な視野で問題を扱う科目である。とくに、現代の提起する複合的な問題や、学際的な連携が必要な主題について、さまざまな専攻分野の教官によるオムニバス形式の連続授業を通して、それぞれの視点から問題に接近することにより、複眼的な見方や知見が提供される。本学各学部の教官の協力だけでなく、本学以外の専門家を多数多く講師として招いて特徴ある授業を構成している。

「人間と文化」に関する科目として13科目(16コマ)、「社会と政策」に関する科目として7科目(11コマ)、「人間と環境」に関する科目として10科目(10コマ)、「自然と情報」に関する科目として5科目(6コマ)、計35科目(43コマ)が開講されている。

(2) 個別科目: 自分の専攻する学問の領域に限定せず、広い視野から見渡す能力を教養として身に付けると共に、自分の専攻に隣接する領域についての知見を深めたり、異なる学問世界への眼や認識を広げる科目であり、次の二つの方法で提供される。

イ) 本学が全学教官の協力体制で開設するもの(全学運営の個別科目)

ロ) 各学部が開講する入門的な専門科目の中から幾つかの科目をあらかじめ指定し、他学部の学生に対し普遍科目中の個別科目を補うものとして開放するもの(学部開放科目)。

全学運営の個別科目としては、「人間と文化」に関する科目として58科目(62コマ)、「社会と政策」に関する科目として26科目(33コマ)、「人間と環境」に関する科目として30科目(50コマ)、「自然と情報」に関する科目として42科目(46コマ)、合計156科目(191コマ)が開講されている。

セミナー型科目については、普遍科目の上記の分類a, b, c, dに関する科目として、それぞれ、12科目(17コマ)、2科目(2コマ)、9科目(10コマ)、4科目(5コマ)の計17科目(24コマ)が開講されている。

## 3) 専門基礎科目

専門教育においても、4年(医学部は6年)一貫教育体制を原則として、各学部がそれぞれの教育理念と教育目標にしたがって、専門分野の学問領域について体系的知識を獲得させる講義とともに、演習・実験・実習を通じて、専門に関する基本的知識及び分析的方法と総合する能力を修得できるように指導している。とくに、低学年次においては、専門の基礎となる科目、すなわち「専門基礎科目」を設定し、その教育を重視した4年一貫(医学部は6年一貫)教育体制による専門教育のスタートと位置付けて取り組んでいる。専門基礎科目は、主として自然科学系の基礎科目である全学運営専門基礎科目と学部・学科等が独自に運営する科目のうちの入門的な特定科目を組み合わせで構成される。なお、全学的に行われている新入生導入セミナー等は、専門教育への導入教育として専門基礎科目に区分している学部・学科が多い。全学運営専門基礎科目の開講状況は、以下の通りである。

|            |      |         |
|------------|------|---------|
| 数学・統計学関連科目 | 22科目 | (88コマ)  |
| 物理学関連科目    | 16科目 | (131コマ) |
| 化学関連科目     | 10科目 | (39コマ)  |
| 生物学関連科目    | 27科目 | (31コマ)  |
| 地球科学関連科目   | 9科目  | (9コマ)   |

4) 以上の他、外国人留学生向けの23科目(42コマ)、博物館学芸員や図書館司書の資格取得用科目として10科目(10コマ)が開設され、さらに、「千葉大学短期留学国際プログラム」科目の授業が人文・社会・自然の各分野について英語で行われている。

## 3. 教養教育の履修状況

平成12年度における普遍教育科目等の履修登録者延べ人数と卒業までの平均受講コマ数を以下に示す。

|          |          |         |
|----------|----------|---------|
| 外国語科目    | 33,143人  | 12.85コマ |
| 情報処理科目   | 2,630人   | 1.02コマ  |
| スポーツ健康科学 | 4,342人   | 1.68コマ  |
| 普遍科目     | 35,485人  | 13.76コマ |
| 専門基礎科目   | 26,896人  |         |
| 合計       | 102,769人 |         |

以上から普遍教育科目の履修登録者の合計は、延べ75,875人、全学運営専門基礎科目及びその他と合わせて総計は、延べ103,638人であった。全学の履修基準を基に試算した(最低限必要の)コマ数と比較してみると、普遍教育科目では129%の履修登録、全学運営専門基礎科目を含めて135%の履修登録となっている。このことは、学生が履修基準を超えて全体の平均では35%程度多く履修登録していることになる。これには、「再履修」、「意欲的」履修、「安全のため」などの目的が含まれていると考えられる。

### (3) 教育方法

まったく性格の違う9つの学部を擁する千葉大学においては、各学部の性格や多様な学生の要望に合わせながら教養教育を実施せざるを得ない。その基本方針は、各学部のカリキュラムに定められた履修条件を円滑に推進することを前提にしつつ、大学教育委員会によって決定される。その目的や実施体制は上述したので、ここでは具体的な教育方法について述べる。

学生は、各学部の「履修要項」にしたがって、教養教育の履修科目を決定する。その内容は、いずれの学部においても、外国語科目・情報処理科目・スポーツ健康科学・総合科目・個別科目と、主に自然科学系の学部で必修化されている専門基礎科目とによって構成されている。それぞれの科目群の性格によって形態や指導法は異なるので、以下、科目群ごとに説明する。

外国語科目は、その履修単位数や履修方法に違いはあるが、すべての学部で必修に指定されている。殊に既修外国語である英語では、履修者が多いため1年次においては各学部ごとに授業時間を指定して履修させる。ただし、指定時間帯内には講読・会話・作文など多様な内容の授業科目を置き、学生の希望に合う科目が選択できるように配慮している。科目・クラスの決定は、ガイダンス期間中に希望登録用紙を提出させ、希望順位によって行っている。英語以外の外国語としては、すでに前述したように多種多様な外国語科目が準備されている。いずれも少人数(10~50名程度)クラスによって運営され、履修内容に沿った教育が施される。殊に英語では、外国語センターで独自に開発したCALLと呼ばれるシステムを導入するなど、最先端の教育方法を採用して各学部の教育方針に沿った授業展開を目指している。原則として英語は通年、他の外国語は半期制により、授業の効率化と成果向上を目指すと共に、すべての担当教員は毎回の授業への出席を重視し、学生の主体的な参加を促している。したがって、成績評価においても出席が重視され、授業時間内に行われる小テストや期末試験、提出レポートなどを加えた総合評価が行われている。

情報処理科目は、ほぼ全学部必修科目で、1年次の履修を義務づけている。クラスは、各学科ごとに時間指定である。基本的な情報処理能力と情報化社会に関する知識や倫理を養うことを目的とし、情報処理を専門教育に役立てられるように指導している。千葉大学の情報処理教育は長い実績があり、独自のテキストによって、自習を促進させながら授業が展開されている。また、TAを活用しながら実践的な指導が行われ、学生は、この科目を履修すると同時にメールアドレスやアカウントを取得し、学内LANを自由に使用すること

ができる。成績評価は、授業参加を前提として期末試験などによって行われている。

スポーツ健康科学は、多くの学部で必修としているが、選択に指定している学部もある。実技を主体とした科目であり、半期で1単位である。4月のガイダンス期間中に前期履修希望種目の提出と抽選が行われて、履修科目が決定する。後期履修科目については、7月に募集が行われ、決定する。厳しい出席を義務づけ、出席状況や授業への取り組み姿勢などによって成績評価がなされている。

総合科目は、千葉大学の教養教育の特徴の一つとして長年の実績をもち、学生にも好評である。その運営は総合科目運営委員会によって統括され、各科目は、科目ごとの世話人によって運営される。毎年、30~40の科目が開講されるが、その内容は多岐にわたり、総合大学の特徴が遺憾なく発揮されている。それぞれの科目は、内容に合わせて1~2回ずつの授業を別の教員が担当し、世話人が出席と期末試験・レポート等によって成績評価を行う。毎授業ごとにレポートを提出させる科目もあるが、受講者が250人を超える科目もあり、科目運営の負担が大きいという問題を抱える。

個別科目は、人間と文化、社会と政策、人間と環境、自然と情報の4群に大別され、それぞれセミナー型と講義型の授業科目を設定してきたが、平成13年度から、16のコアに分類し直された。ただ、この試みも過渡的なもので、来年度以降の改編が検討されている。普遍科目の内容は極めて多様で、各教員がもっとも興味をもつ今日的な課題を学生に講義し、共に考えようと働きかけている。社会に対する広い知識を与えるとともに専門の研究への導入という意義もある。学生は自分の興味に合わせて自由に選択することができるが、人数が集中する科目については調整が行われる。成績評価の方法は、予めシラバスに明記しており、出席と期末試験・レポート等である。

専門基礎科目は、主に自然科学系の学部において必修指定されている科目で、これらの中から学部や学科・専攻の専門性を考慮して特定の授業科目や履修時間が指定される。文系の学生が自由に選択できる自然系普遍科目も多い。講義の他、演習科目や実験科目も豊富に準備されている。学生数に合わせて複数の同一科目を置く必要があり、担当者は異なるが、統一的なシラバスを準備することで授業内容の標準化を図る工夫をしている。この科目群は、専門教育への第一段階として重視されている。成績評価は出席と試験によって行われるが、実験科目では毎回の課題への取り組みが重視される。

## 5 変遷及び今後の方向

平成6年の普遍教育開始後、総合科目の充実、未修外国語科目数の拡大、セミナー型科目区分の廃止、さらには平成13年度からのコアカリキュラムの導入など、多くの変遷を経て今日に至っている。しかしながら、このような変遷をもってしても普遍教育の形骸化が叫ばれて久しい。このことから以下に述べる方向性を持って、改革を進めることを現在検討している。

### 1) 教養教育の目的と位置付け

グローバル化し、急速に変化する現代社会においては、教養の意味内容が変化しており、従来のような教養教育の概念では不十分となっている。教養教育においては、専門的知識、技能を活用するための前提となる基本的な問題探究解決能力、人間と歴史に関する基本的知識、自然科学的知識、外国語運用能力、自己管理能力を身につけた人材を育てる必要があることを確認し、さらに、今後、社会、経済、文化の地球規模での交流が進み、国際的な協調、共生さらには競争の関係が増大する時代において、世界中の様々な人々と共生し、地球社会の一員として活躍する人材の育成が求められていることを認識しなければならない。

また情報ネットワーク社会化の中で、従来の道徳的価値観がそのままでは通用しなくなっている。このため、知育のみならず、倫理的判断、責任感を持って行動する能力を育成することが教養教育に求められている。

今後、大学に入学してくる学生は、高度な知識を予め持っている者、外国で教育を受けた者、高校で十分な教育を受けて来なかった者など、ますます多様になることが予想される。このため、入学してくる学生のレベルを判定し、そのレベルに即した授業科目を提供することを目指す。

### 2) 教養教育の内容の改革

平成13年度におけるコアカリキュラムの導入をさらに発展させ、コア科目を中心として21世紀に対応する教養教育を構築し、これを受講する機会を全学生に提供する。コア教育においては、情報、環境、バイオテクノロジー、国際関係など21世紀社会における重要な分野について、学生がその専門分野でない場合においても当然知っておかなければならない知識を修得させることとする。実際の科目構成については、各学部の意向を踏まえつつ構築することとして、漸次的に実現していく予定である。

また教育の多様性を保障するため、個別的な問題・

テーマについて、学生が自由に選択しうるものとして個別科目を提供することとする。個別科目は、共通の基盤を確立することを目的とするコア科目とのカウンターバランスとして、個々の教員と個々の学生が独自の関心を共有して個性的な科目を実現することを目的とする。

外国語教育については、現代において国際共通語として中心的な役割を果たしている英語の教育を中心とする。グローバル社会においては、英語によるコミュニケーション能力と各分野における英語運用能力を持つ人材が求められていることを重視した教育の内容とする。英語以外の外国語については、国際共通語としての重要性をなお保持している外国語、今後国際共通語として重要度が高まる言語など5 - 6カ国語の教育を行う。学生の外国語運用能力が多様に育成されるよう、それに即した授業を行わなければならない。また、大学以外にも語学を学習する手段が多くなってきている。このため、学生の外国語能力を判定し、その判定結果に応じた語学教育に関する指導を行うことも、外国語教育の重要課題に含まれる。国際共通語以外の外国語は、個別科目として提供されることになるであろう。

スポーツ・健康科学科目は、教養教育において重要な要素である科目と考える。ネットワーク社会においても、人は物理的空間において対面で対話する。知育偏重の現代社会において物理的空間で「からだ」を動かす、同級生と接することは、学生の対面的コミュニケーション能力を体験を通じて高めるために必要である。

情報通信技術の飛躍的發展により、情報教育の重要性は高まっている。ただし、今後、中学・高校での情報処理教育が充実していく中で、基本的な情報技術の習得は入学時には終わっている学生が増えていくであろう。このため、大学では、それぞれの専門分野に関わる情報教育についても強く求められることになるであろう。このことに関連した情報教育は、専門基礎教育として行うこととなるであろう。また、ネットワーク社会化現象は、社会的モラルを従来のモラルの範囲だけでは、不十分なものとしている。このため、高度情報化社会のモラルの涵養を図る教育が、教養教育には求められると考えている。

以上のような改革の方向は、教養教育は学部教育の全体構想の中に位置付けられるという前提条件で立案されている。すなわち、教養教育が専門基礎科目を含む専門教育と連携することによりはじめて学部教育が成り立つと考えている。



(3) 1. 卒業要件単位数を記入してください。

| 学部名               | 単位数 |
|-------------------|-----|
| 文学部               | 124 |
| 教育学部              | 124 |
| 法経学部 (法学科)        | 132 |
| 法経学部 (経済学科)       | 134 |
| 法経学部 (総合政策学科)     | 132 |
| 理学部 (数学情報数理学科)    | 130 |
| 理学部 (物理学科)        | 127 |
| 理学部 (化学科)         | 132 |
| 理学部 (生物学科)        | 124 |
| 理学部 (地球科学科)       | 127 |
| 医学部               | 192 |
| 薬学部               | 140 |
| 看護学部              | 127 |
| 工学部 (都市環境システム学科)  | 124 |
| 工学部 (デザイン工学科)     | 124 |
| 工学部 (電子機械工学科)     | 130 |
| 工学部 (情報画像工学科)     | 130 |
| 工学部 (物質工学科)       | 134 |
| 工学部 (都市環境システム学科B) | 134 |
| 園芸学部              | 134 |

2. 一般教養に関する教育の授業科目区分の卒業要件単位数を記入してください。

| 学部名                  | 単位数   |
|----------------------|-------|
| 文学部                  | 22    |
| 教育学部 (小学校教員養成・理科・技術) | 22-26 |
| 教育学部 (小学校教員算数・理科)    | 24-28 |
| 教育学部 (中学校教員自然教養技術教育) | 32-36 |
| 教育学部 (中学校教員情報教育系)    | 30-34 |
| 教育学部 (生涯教育課程)        | 22    |
| 法経学部                 | 24    |
| 理学部 (数学情報数理学科)       | 42-46 |
| 理学部 (物理学科)           | 59    |
| 理学部 (化学科)            | 46    |
| 理学部 (生物学科)           | 38-42 |
| 理学部 (地球科学科)          | 51-55 |
| 医学部                  | 50    |
| 薬学部                  | 20    |
| 看護学部                 | 30    |
| 工学部 (都市環境システム学科A)    | 36-62 |
| 工学部 (デザイン工学科)        | 36-60 |
| 工学部 (電子機械工学科)        | 62-74 |
| 工学部 (情報画像工学科)        | 64    |
| 工学部 (物質工学科)          | 62    |
| 工学部 (都市環境システム学科B)    | 4-70  |
| 園芸学部                 | 48    |

3. (1)の授業科目区分の合計単位数を記入してください。

| 学部名               | 単位数   |
|-------------------|-------|
| 文学部               | 22    |
| 教育学部 (下記以外)       | 18-22 |
| 教育学部 (生涯教育課程)     | 22    |
| 法経学部              | 24    |
| 理学部 (数学情報数理学科)    | 22-26 |
| 理学部 (物理学科)        | 22    |
| 理学部 (化学科)         | 22    |
| 理学部 (生物学科)        | 24-28 |
| 理学部 (地球科学科)       | 28-32 |
| 医学部               | 36    |
| 薬学部               | 18    |
| 看護学部              | 30    |
| 工学部 (都市環境システム学科A) | 18-36 |
| 工学部 (デザイン工学科)     | 18-36 |
| 工学部 (電子機械工学科)     | 24-34 |
| 工学部 (情報画像工学科)     | 28    |
| 工学部 (物質工学科)       | 26    |
| 工学部 (都市環境システム学科B) | 0-60  |
| 園芸学部              | 34    |

(2)の授業科目区分の合計単位数を記入してください。

| 学部名                  | 単位数   |
|----------------------|-------|
| 文学部                  | 0     |
| 教育学部 (小学校教員算数・理科・技術) | 6     |
| 教育学部 (中学校教員自然教養技術教育) | 14    |
| 教育学部 (中学校教員情報教育系)    | 12    |
| 教育学部 (上記以外)          | 4     |
| 法経学部                 | 0     |
| 理学部 (数学情報数理学科)       | 20    |
| 理学部 (物理学科)           | 37    |
| 理学部 (化学科)            | 24    |
| 理学部 (生物学科)           | 14    |
| 理学部 (地球科学科)          | 28    |
| 医学部                  | 23    |
| 薬学部                  | 2     |
| 看護学部                 | 0     |
| 工学部 (都市環境システム学科A)    | 18-36 |
| 工学部 (デザイン工学科)        | 18-29 |
| 工学部 (電子機械工学科)        | 38-43 |
| 工学部 (情報画像工学科)        | 36    |
| 工学部 (物質工学科)          | 36    |
| 工学部 (都市環境システム学科B)    | 4-44  |
| 園芸学部                 | 14    |

4-2-4 一般教養に関する教育の授業科目の履修年次

(1) 4

・「4」を選択した場合、以下の欄に履修年次を記入してください。

| 履修年次   |
|--|
| 英語、情報処理、専門基礎科目の一部については1年次に重点を置いて履修年次が指定されているが、その他の大部分は特に履修年次の指定はない。しかし、多くの学生は1～2年次に集中して履修する結果となっている。 |

| 授業科目区分名 | 授業科目名 |
|---------|-------|
|         |       |

4-2-5 一般教養に関する教育の授業科目の履修状況

(1) 平成12年度

| 授業科目区分名    | 最小値 (人) | 平均値 (人) | 最大値 (人) |
|------------|---------|---------|---------|
| 普通教育科目     |         |         |         |
| 英語         | 1       | 36.5    | 91      |
| その他の外国語    | 1       | 18.0    | 99      |
| 情報処理科目     | 43      | 92.9    | 108     |
| スポーツ・健康科学  | 1       | 34.9    | 57      |
| 総合科目       | 16      | 162.3   | 528     |
| 個別科目       | 4       | 137.6   | 652     |
| セミナー型科目    | 4       | 31.0    | 223     |
| 全学運営専門基礎科目 |         |         |         |
| 数学         | 8       | 80.6    | 235     |
| 物理         | 14      | 80.0    | 180     |
| 化学         | 37      | 97.6    | 156     |
| 生物         | 42      | 118.8   | 271     |
| 地球科学       | 107     | 130.5   | 166     |
| 基礎実験       | 3       | 43.2    | 92      |
| 国際交流科目     | 1       | 11.1    | 31      |
| 資格取得用科目    | 6       | 68.1    | 122     |

(2) 平成11年度

<1> 分母を履修登録した学生数とした場合>

| 授業科目区分名    | 最小値 (%) | 平均値 (%) | 最大値 (%) |
|------------|---------|---------|---------|
| 英語         | 42.3    | 84.8    | 100     |
| その他の外国語    | 50.0    | 76.4    | 100     |
| 情報処理科目     | 75.8    | 89.0    | 95.1    |
| スポーツ・健康科学  | 71.8    | 90.4    | 100     |
| 総合科目       | 35.4    | 65.0    | 80.4    |
| 個別科目       | 36.1    | 59.7    | 86.9    |
| セミナー型科目    | 40.9    | 61.8    | 78.9    |
| 全学運営専門基礎科目 | 42.6    | 74.3    | 95.7    |

<2> 分母を成績判定を行った学生数とした場合>

| 授業科目区分名    | 最小値 (%) | 平均値 (%) | 最大値 (%) |
|------------|---------|---------|---------|
| 英語         | 61.5    | 95.1    | 100     |
| その他の外国語    | 76.9    | 95.1    | 100     |
| 情報処理科目     | 85.2    | 94.2    | 100     |
| スポーツ・健康科学  | 88.4    | 98.1    | 100     |
| 総合科目       | 50.0    | 88.1    | 92.4    |
| 個別科目       | 72.1    | 90.0    | 100     |
| セミナー型科目    | 78.6    | 95.1    | 100     |
| 全学運営専門基礎科目 | 66.7    | 88.0    | 100     |

(3) 平成11年度

| 平均値 (単位) | 最大値 (単位) |
|----------|----------|
| 文系 23.2  | 文系 93    |
| 理系 48.9  | 理系 90    |
| 全体 37.9  | 全体 93    |

4-3-2 一般教養に関する教育の授業科目における履修登録者数の上限設定

| 人数区分                | 授業科目区分名   | 授業科目名       |      |
|---------------------|-----------|-------------|------|
|                     |           |             |      |
| 1. 20名以下            | 外国語       | アラビア語3      |      |
|                     | スポーツ・健康科学 | 保健運動A       | 倫理学B |
|                     | 個別科目      | 心理学と実験      |      |
|                     | 国際交流科目    | 日本語上級1      |      |
| 2. 21名以上<br>～50名以下  | 外国語       | 中国語2 文化コース  |      |
|                     | スポーツ・健康科学 | バトミントン      |      |
|                     | 総合科目      | 琉球語B        |      |
|                     | 個別科目      | 世界の言語A      |      |
| 3. 51名以上<br>～100名以下 | スポーツ・健康科学 | バレーボール      |      |
|                     | 総合科目      | 伊豆講義の文化と自然  |      |
|                     | 個別科目      | 生活文化論A      |      |
|                     | 専門基礎科目    | 物理学基礎実験IV   |      |
| 4. 100名超            | 総合科目      | スポーツと人間     |      |
|                     | 総合科目      | 人間行動と社会科学論A |      |
|                     | 個別科目      | 科学論A        |      |
|                     | 個別科目      | イスラム思想      |      |
| 個別科目                | 製品デザイン論   |             |      |

・「3」を選択した場合

| 学部名 | 授業科目区分名 |
|-----|---------|
|     |         |

・「4」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

(2) 1、2、3、6、7

・「7」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

1) 参考書、または テキスト  
2) 受講条件、前提

(5) 1 (総合科目では、2)

(4) 1、3

・「4」を選択した場合、以下の欄に具体的に記述してください。

|  |
|--|
|  |
|--|

4-3-3 一般教養に関する教育の授業科目におけるシラバスの実施状況

(1) 1

・「2」を選択した場合

| 授業科目区分名 |
|---------|
|         |